科目名	経済学Ⅰ	担当者	川又　祐	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回	必修選択	政経 新聞 公共政策		

【関連するDP・CP】 （DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針） （CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針）	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】

経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective：GIO　一般目標)

中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】

なし

【授業方法】

テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。
グーグルクラスルーム、グーグルフォーム、出席管理システム（レスポン），Yドライブを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives：SBOs　個別行動目標)

ルーブリック評価項目の内容				
	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力

	達成されるべき具体的行動	関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。	1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。	1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。	1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。	1	1	1	1				
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験（定期試験／授業内試験）	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。 場合により授業外課題を筆記試験に替えることがある。	10	30	30	10							80
小テスト等	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出により、到達目標②③にかかわる理解が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
	到達目標別の比率(%)	10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時間中、あるいはグーグルクラスルームやポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】

書　　名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ　経済学入門　第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携

備考	

【オフィスアワー】

火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】

担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容	なし		

【授業計画】※日程について，複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は，併記を行っている。

回数	テーマ	内　　容	
1	経済学Ｉを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第1章1経済と経済学をよく読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ，経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第1章2経済循環の構造　3市場経済・計画経済・混合経済　4市場機構の仕組み　5経済学の歴史をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の主要テーマを整理する。	120分
3	消費者行動の理論(1)	消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用および効用関数の概念を身近な例を挙げて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用及び効用関数の概念を身近な例を挙げて説明できる。加重限界効用均等の法則を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章1消費者行動をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、効用関数を自分で描く。	120分
4	消費者行動の理論(2)	消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。	
	事前学修	教科書第2効用関数と無差別曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、無差別曲線を自分で描く。	120分
5	消費者行動の理論(3)	消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を説明できる。。	
	事前学修	教科書第2章3最適消費の条件をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、最適消費点を自分でグラフに描く。	120分
6	消費者行動の理論(4)	消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を説明できる。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章4価格と所得の変化をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、需要曲線を自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について，複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は，併記を行っている。			
回数	テーマ	内　　容	
7	生産者行動の理論(1)	生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章1生産者の行動、2生産関数と等量曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産者行動の目的を整理する。	120分
8	生産者行動の理論(2)	企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章3費用関数をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、費用曲線を自分で描く。	120分
9	生産者行動の理論(3)	最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。	120分
10	生産者行動の理論(4)	最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について微分を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。	120分
11	生産者行動の理論(5)	損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章5供給曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線を自分でグラフに描く。	120分
12	競争市場均衡(1)	市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。	
	この回の到達目標	目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1競争市場をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の分類を整理する。	120分

【授業計画】※日程について，複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は，併記を行っている。			
回数	テーマ	内　　容	
13	競争市場均衡(2)	経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
	事前学修	教科書第4章2余剰分析、3比較静学をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、余剰概念を整理する。	120分
14	不完全競争市場(1)	独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。独占企業の利潤極大化条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争市場における独占企業の利潤極大化条件を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1不完全競争市場とは、2完全独占市場とは、3独占的競争・寡占市場とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、不完全競争理論を整理する。	120分
15	講義のまとめ	講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のミクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分